

オモローカル つつしん

Vol.
01

結^ゆいのまちで
楽しく暮らす

にゃん♡

なばり
三重県 名張市
OMO-LOCAL CITY NABARI



コワーキングスペース FLAT BASE

名張の旧市街地の空き家を
改装して整備されたコワー
キングスペース。町家の雰
囲気を生かしたイベントス
ペースも兼ねていて、地域
の内外から人が集まり、数々
の出会いを生んでいる。

イオン名張店



FLAT BASE ★
フラット ベース

名張市元町433-8



HP



何か始まる予感

和菓子好きが集まったり、ジャズコンサートを楽しんだり、まちづくりの研究発表が行われたりと、まるで「大人の秘密基地」のようなコワーキングスペースが、名張にある。「ここに来ると、誰かに出会い、何かおもしろいことが始まるかも」。訪れる人たちが、そう感じてしまう不思議な場所だ。

こんな逸話もある。ある日、「子どもたちの居場所をつくりたい」という若者が、「ふらっと」FLAT BASEを訪れた。ちょうど、花火大会に合わせてまちを盛り上げたいと考えていたスタッフたち。「なんや、この偶然!」となり、施設利用者も巻き込みながら、子ども向けのイベントを企画。花火大会当日は、「FLAT BASE」に子どもたちの歓声が響いたという。ちなみに、準備も含め、大人も相当楽しんでみたい。



SNSで「FLAT BASE」の活動を知った立山和樹さん。「子どもと触れ合える時間が少なくて脱サラ。地域にもっと子どもたちの居場所があれば思い立ち、ここなら何かできそうだった」と話す。

管理者の北森さん（右）
と野山さん（左）。夫婦漫
才のような掛け合いは、
もはや名張に欠かせない
魅力なのかも！

お
い
で

想いと縁をつなぐ



スタッフは10人程。杉田 香
乃さん（右）は、名張をこよ
なく愛する大学生。（一社）「つ
なぐ」の設立メンバーでもあ
り、空き家の改築などにも参
加している。

名張地区の活性化を担う「地
域おこし協力隊」の長谷川 幸
太朗さん（左）はスタッフを
しながらの人脈づくりに余念
がない。前職はアニメ関連で、
その道の知識に精通している。

想いが集う、結^ゆいの空間

「ふらっと」人が集まって、想いと縁がつながる
場所。アットホームさが自慢です。そう話すのは、
「FLAT BASE」管理者の北森仁美さん。「ここを拠
点に、いろんな人がつながれる居心地のいいまちに
したい。人口減少社会でも幸せに暮らす方法に向き
合えれば」。ここには以前、北森さんの義母が住ん
でいて、「この家が賑やかになっていくこともうれ
しい」と笑顔を見せる。

空き家を活用したまちづくりを進める（一社）「つ
なぐ」代表理事の野山直人さんも管理者の一人。法
人名には「まちと建物、人を未来へつなぎたい」と
いう思いが込められた。「生まれ育った名張で子育て
をしたいと思い、Uターン。でも、まちに人がい
ない。空き家が増えている。建築士としての経験を
生かしながら、子どものころのような賑やかなまち
を取り戻したかった」と振り返る。

空き家を地域に開かれた場にしたいと考えてい
た北森さんと野山さんが出会い、共同で「FLAT

BASE」を整備することに。「地域の人が集える場が
あり、外からも気軽に人がやってくる。そうやって、
まちの中にいろんな人が馴染んでいけばいいですよ
ね」。そんな思いが「FLAT BASE」の運営に生かさ
れている。

「FLAT BASE」は、2022年3月のオープン以来、
いろんな人をアットホームに受け入れてきた。個性
豊かなスタッフによる趣向を凝らした催しも繰り広
げられているので、皆さんも“ふらっと”訪れてみ
てはいかが
だろうか。



Instagram





大学生が地域の課題や魅力を探る「YORIAL プロジェクト」。現地案内や聞き取りなどに地域の皆さんが全面協力。大学生は空き家の多さに驚き、その活用を提案した

まちを未来へつなぐ

「滝川 YORIAL」が運営する赤目四十八滝キャンプ場。地域内外の人が集う拠点としても活用されている



子どもたちが集うたこ焼き屋として 空き家を活用



空き家で 大学生が学習教室をスタート

地元の青年会メンバーが立ち上げた（一社）「滝川 YORIAL（よりあい）」。閉鎖寸前だった赤目四十八滝キャンプ場の運営を皮切りに、空き家や耕作放棄地の活用、地域資源の掘り起こし、集客イベントの開催など、地域課題解決に向けて積極的に取り組んでいる。



滝川 YORIAL



赤目まちづくり委員会

みんなで作る、みんなのコミュニティ

若者の声に耳を傾け、挑戦できる雰囲気をつくらなく！

赤目まちづくり委員会
藤村 純子 さん

名勝・赤目四十八滝のふもとに広がる赤目地域では、シニア世代、子育て世代、その子ども世代、そして、移住してきた若者たちも一緒になって、まちを未来につなぐチャレンジが始まっている。

赤目まちづくり委員会会長の藤村さんは、「地域ぐるみで若者の活動を応援し、できるだけ若い人と一緒に活動していこうとしています。『今まではこうだったから』と頭ごなしに否定せずに、若い人たちのチャレンジを温かい目で見守っていきたい。失敗も繰り返し

しながら、まちづくりを継続できれば」とニコリ。

「地域一丸となって活動を支援いただいているので、新しい事業にチャレンジしやすい。地域の中で生まれしてきた若者同士の結び付きも心強いですね」と話すのは、（一社）「滝川 YORIAL」代表理事の重森さん。「人と人の新しい出会いが、地域活性化に向けた化学反応に結び付いていくはず」と、未来に期待を込める。一人ひとりの情熱やアイデアが、地域の多様なつながりの中でうまく生かされている。

地域の支えがあると、おもしろいアイデアが形になっていく！

（一社）滝川 YORIAL
重森 洋志 さん



子どもたちの思いを地域ぐるみで実現していく中、H 29 年の会議発足時は中学生 2 人だった参加者が、今では 50 人ほどに

子どもたちと一緒に。

「最近はいいさつをする子どもが多くなったね」。そう話すのは、つつじが丘・春日丘自治協議会会長の内内さん。地域ぐるみのあいさつ運動は、「つつじ子会議」という小中学生と大人たちが地域の課題を話し合う場から生まれた。

「あいさつが飛び交うまちにしよう」と、子ども



つつじが丘・春日丘自治協議会
大内 房雄 さん

たちは地域を練り歩いたり、あいさつを呼びかけるティッシュを配ったり、まちじゅうに看板を立てたり…。あいさつ運動のほかにも、地元のイベント企画や、ご当地キャラ「えみらる」の制作、コロナ禍における応援弁当の販売など、話し合われた内容が 1 つずつ、地域ぐるみで取り組まれていく。そうした中、子どもたちも進んで活動に参加していくようになっていった。

大内さんは、「地域のためにと、子どもたちからいろいろ提案してくれる。できるだけ、一緒に実現させていきたい」と嬉しそう。子どもを地域の一員と捉え、一緒に考えるまちづくりが進むつつじが丘地域。子どもたちは、地域の大人たちと関わりながら、生き生きと育っている。

つつじが丘・春日丘
自治協議会



人が温かい
このまちに
住み続けたい



平野 結士さん (南中)

地域の大人とも顔なじみになったので、これからも地域の行事に関わっていきたい。つつじが丘は、人が温かくて、すぐ居心地のいいところ。できれば、ずっと住み続けたいな。



つつじが丘が
めっちゃ好き!



これまで、地域の人と接することもなかったけれど、今では、いろんな人に大きな声であいさつできるように。すると、笑顔でいろいろ話しかけてくれるようになって、それがなんだかうれしいな。



名張地域づくり
ポータルサイト

体も心も喜んで



1 turn

かみたかはら
上高原 由佳さん (お餅をついている女性)

無農薬米を作る大ベテランに農業を教わろうと、大阪から移住した上高原さん。農業が軌道に乗る中、市内外の親子連れなどを対象に、種まきから田植え、稲刈り、お餅つきまでの農業体験を始めた。農業体験に加えて、飲食のマルシェやヨガなどのワークショップもあり参加者から好評だ。「移住仲間も含め、みんなで助け合っていて楽しんでいます。名張にはおいしいお米や野菜、楽しい人がいっぱいだと知ってもらいたい機会。体も心も喜んでもらえればありがたいですね」。



Instagram

名張の夢追いびと



名張で描く夢 (市 HP)



1 turn

古民家カフェ ビックスパイス
杉本 美和子さん (緑の服の女性)

古民家で飲食店を開く夢を叶えようと、家族で大阪から移住した杉本さん。古民家の改装中は、近所の人が声をかけてくれたり、生い茂る木を切ってくれたり、採れたて野菜の生産者と結び付けてもらったり。「開店時には、近所の人たちでお店がいっぱいに！その光景は忘れられない」と思い返す。今では、カフェのお客さんと、古民家を使ったライブペイントや占いのイベントも開催。「お客さんとおしゃべりで、どんどん夢が膨らんじゃう。このお店でみんなの夢がつながっていけば嬉しいな」。



Instagram

夢の古民家カフェ

故郷を想う



U turn

Rita Design
美山 莉香さん

都会にあこがれて名張を出ていった時期もある美山さん。「子どもが生まれ、名張は安心・安全な食品が手に入りやすい土地だと気付いたんです。名張って、実は、たくさんの魅力があって、新しい発見を楽しめるまち」と微笑む。自身が運営するウェブサイト「nanowa」では、食や農をはじめ、たくさんの名張の魅力を発信中だ。

かつて賑わいをみせた青蓮寺湖畔の「ロマンの森」復活にも挑む。跡地に立地する「yuno cafe」の仲間とともに始めた「森のはるかぜマルシェ」と「森のあきいろフェスタ」は、市内外から多くの家族連れなどで賑わうように。2023年にはキャンプ場もオープン。懐かしくも新しいスポットとして、よみがえってきた！



nanowa HP



U turn

I turn

ディープな名張をプロデュース

古書からすうり
中田 俊昭さん 茂美さん



note

伊賀市出身の俊昭さんと、名張へUターンした茂美さん。古書店を営む夫婦がまちの活性化に向けて注目したのが「江戸川乱歩」。名張は乱歩の生誕地なのだ。「ここから「乱歩」が始まった」ので、「ココランポ」と名付けた催しをスタートさせた。

第1回目は、乱歩の朗読劇と名張旧市街地の雰囲気ある町家を巡るツアーを同時開催 (2022年11月)。「乱歩作品や名張のまちの魅力は一言で伝えるに、その奥深さに気付けるのかも」と俊昭さん。ミステリー図書館をまちなかにつくるのが二人の夢だ。

名張は小さなまちですが、 やる気に満ちています

名張は、大阪や名古屋へのアクセスが良い上に、赤目四十八滝や青蓮寺湖など身近に豊かな自然を感じられるまちとして有名です。最近では「市民ぐるみの子育て支援ネットワーク」など、つながりや縁を大事にした共生のまちづくりが注目されていて、WHO（世界保健機関）も視察に訪れるほど。そんな名張に移住し、抱いてきた夢や想いを実現しようとする方が増えています。

温かい人と人とのつながりや縁を支えに、いろんなことにチャレンジし、楽しく暮らせるまち・名張。私の愛するこのまちは、これからもっとおもしろくなっていきますよ！

名張市長 北川 裕之

このまちで
やりたいことを
楽しみながら、
始める！

移住・定住情報
市 HP 「なばり暮らし」



大阪・名古屋
からのアクセス
抜群です！

近鉄名張駅下車



WEB版

オモローカルっうしん | 01

ゆ 結いのまちで楽しく暮らす 2023年2月発行（不定期）

企画 / 取材 / 編集 / 発行 三重県名張市 <移住・定住ホットライン ☎ 0595-63-7782 >

※この冊子は「広報なばり」2022年10月号を再編集したもので、役職などは当時のものです